

特集

五感紙&ケンラン キャンペーン

記事

五感紙&ケンラン キャンペーン

エコアクション21

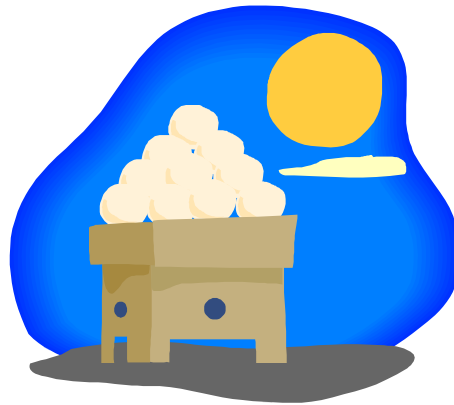
スロー・ファイヤー



五感紙&ケンランキャンペーン

9月なりまして、ゆっくりではありますが日に日にすごしやすくなってまいりました。9月は、陰暦で長月といいます。この月から夜がだんだん長くなるから夜長月という意味だそうです。

中秋の名月、十五夜のお月見の時期でもあります。十五夜とは、旧暦の八月



十五日をさします。今は新暦が使われていますので、毎年十五夜の日には変わってしまいます。今年の十五夜は、9月14日になります。

日本には古くから、十三夜というものもあります。旧暦の九月十三日です。こちらは、今年は10月11日です。昔の人は、片見月といって片方だけの月見を嫌う風習があったそうです。そのため、二度目のデートを確実にするため、十五夜に異性を誘うということがあったそうです。

さて現在、五感紙&ケンランのキャンペーン中です。10月末日までです。ケンランの<180><225>、五感紙のA色<160>などは常備在庫しています。また、サンプルが必要でしたら、遠慮なく担当営業までご連絡ください。よろしくお願いいたします。

エコアクション21

当社ではエコアクション21に取り組んでいます。その認証取得審査を8月21・22日の2日間受けました。

今年の1月から社員から選ばれた環境委員を中心に、社員全員が協力して取り組んできました。ニュースレターの10号にも書きましたが、審査の方が言っていた二次的なメリットとしての「会社としてもまともができる」ということが、実際に実感できました。もちろん、環境経営をすることが最大の目的ではありますが、この二次的なメリットは、会社の成長という意味では、ものすごく大きな前進ではないかと思えます。まさに、一挙両得になりました。

審査自体は、思っていたよりも難しくなかったように感じました。もともとの趣旨が、多くの企業にエコアクション21を取得させて継続して環境経営をさせることです。そのため、取得することよりも、環境活動を継続し改善していくことがより重要になっているようです。そのような理由からか改善点はいくつか指摘されましたが、審査人の方からは「認証取得を推薦する」との評価を頂きました。実際の認証取得は、エコアクション21事務局での判定委員会において可否を判定してからになります。結果がわかるのは、11月から12月頃になるようです。

また、当社の取り組みをまとめた『環境活動レポート』は、当社のHPにて閲覧できるようになっています。

スギウラ株式会社**営業一部**〒370-0006
高崎市問屋町 2-2-8**電話番号**代 表
027-361-5808
営業一部
027-361-5734**Fax**

027-361-1272

当社 Web サイト現在、リニューアルにむ
けて、作成中です。

お気付きの点や質問、
疑問などありましたら、
ご遠慮なく営業または、
下記までお問合せくだ
さい。

お問合せ**メールアドレス**sg-takahashi-t
@kamisugiura.co.jp

スロー・ファイヤー

『スロー・ファイヤー』とは、ゆっくり燃え
広がる火事という意味です。しかし、実際
の火事ではなく、アメリカの図書館振興財
団が1987年に作成したフィルムの名前で
す。図書館の蔵書が、ゆっくりと静かに消
滅していることを問題にしたフィルムなの
です。消滅とは、本が実際に消えてなくな
るわけではなく、本に使用されている紙が
劣化によりボロボロになってしまい使えな
くなってしまふということ。アメリカやヨ
ーロッパなどでは、1970年代頃から酸性
紙問題として社会問題になり始めたそう
です。日本でも1982年頃、マスコミで「100
年後は、本がボロボロになる」などと、ずい
ぶん話題になりました。

ではなぜ本がボロボロになってしまうの
でしょうか？

それは、酸による紙の劣化が原因で
す。酸性紙といわれる性質の紙がたくさん
使われていたのです。その酸性紙は、長
期に保存すると劣化して、色が褐色に変
色したりボロボロになったりしてしま
います。

紙は、19世紀中ごろからヨーロッパの
工業化が進むにつれて需要が増え、生産
技術が確立され大量に生産されるよう
になってきました。しかし、その方法で生産
される紙は全て酸性紙でした。そのため
に19世紀以降に出版された本は、紙に
含まれている酸によって徐々に失われて
いるのです。一般に酸性紙は50～100年
の寿命と言われていています。

では、なぜ酸性紙は長期保存が難しい
のでしょうか？

酸性紙は、インクが滲まないようにロジ
ン(松ヤニ)をサイズ剤として使用しま
す。そして、サイズ剤が定着するように硫酸アル
ミニウム(硫酸バンド)を添加します。こ
の硫酸アルミニウムが、紙の中の水分と化

学反応を起こして硫酸になり紙を酸性にし
てしまいます。これが紙の繊維であるセルロ
ースを徐々に傷めて、その結果、紙がボロ
ボロに劣化してしまうのです。

実際には、本の保存環境によって酸によ
る紙への影響は変わるようです。温度や湿
度が高いところでは化学反応は早く進行し
ます。そのため、紙の劣化の進行も早まり
ます。また、酸の脱水作用も大きく影響して
いるようです。紙はもともと、空気中の水分を吸
収したり放出したりしています。冬の暖房機
な使用により空気が乾燥し湿度が下がる
と、酸の脱水作用により水分の放出量が多
くなるのです。そして、セルロース繊維がもろ
くなってしまふのです。

要するに、湿度が高すぎても、低すぎても
紙に対して悪い影響を及ぼすということ
です。

現在では、書籍や資料などに使用される
紙はほとんどが中性紙です。中性紙は、酸
性紙の3～4倍の寿命があると言われていま
す。中性紙といっても、実際には中性から弱
アルカリ性域までで製造された紙をいいま
す。中性紙は、中性サイズ剤としてアルキル
ケテンダイマー(AKD)、アルケニル無水コ
ハク酸(ASA)などを使用します。サイズ剤
を定着するのにカチオン化澱粉などが使用
されます。

簡単に酸性紙と中性紙見分ける方法があ
ります。紙を燃やすと、酸性紙は灰が黒っぽ
くなります。一方、中性紙は白っぽい灰色に
なります。一般に新聞紙は燃やすと黒っぽ
い灰になりますので酸性紙です。

1970年代から酸性紙から中性紙への転
換が進んできたようです。現在では、上質紙
や書籍用紙などのほとんどが中性紙になっ
ています。しかし、新聞や雑誌など、長期保
存しないものは、現在でも多くの酸性紙が使
用されているそうです。